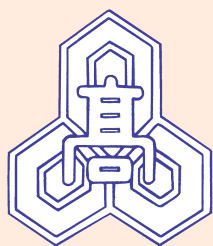


大田高校 P T A 広報



泰山木

Taisanboku

第120号

令和 3 年 10 月

島根県立大田高等学校
P T A 総務委員会

創立百周年記念式典開催



生徒はオンラインで参加



10月9日(土)、大田市民会館で本校創立百周年記念式典が開催されました。

当日は、丸山達也島根県知事や島根県議会議員、大田市長など多くの来賓の方々にご出席いただき、盛大に開催されました。

コロナ禍の中、全校生徒は本校の体育館にてオンラインで式典に参加しました。(3頁に続く)

ごあいさつ

会長 中村 学



平素より、本校PTA活動にご協力いただき、お礼申し上げます。本年度より本校PTA会長を務めさせていただきます中村学と申します。

す。何卒よろしくお願い申し上げます。私は、これまでPTA活動には積極的に参加してきました。私のモットーは長年変わることなく「P」パッと「T」楽しく「A」遊ぼうよ！です。同じPTA活動をするのであれば、楽しく前向きに積極的に過ごした方が時間の価値が高まると思います。PTA活動、肩の力を抜いて楽しく行きましょう！

さて、いよいよ今年は本校創立百周年となりました。微力ではありますがしっかりとその役割を果たしたいと思っております。

私は、本校昭和五十七年度卒業で、その当時三年生として六十周年事業を経験しております。それがまさか私が百周年の時にPTA会長になるとは全く想像が付きませんでした。

話は変わりますが、今、新型コロナウイルス感染拡大、自然災害、経済的不況と過去に経験したことのない状況になっています。感染対策ではリモート等ITの活用も身に着ける必要が出てきました。自然災害の復旧作業は土砂を捌き上げるところから始まります。経済的不況も知恵、情報、発想、行動力等駆使し乗り越えて生き抜く力が求められます。つまり、勉強だけでなく、生き抜く知恵、自然と向き合う力等、人として持ち合わせているあらゆる能力を高める時代になっていると感じます。PTAとして、本校の子ども達にこの激動の時代を生き抜く力をいかに身に着けるかという視点を持って関わっていききたいと思っております。

先生方のお力だけでなく、地域の皆様、そして何よりもPTA会員の保護者の皆様のお力も必要となります。皆様の活動への参加をお願い致します。

創立百周年を迎えて

副会長 渡部 敏郎



本校は、大正十年に県内四番目の島根県立大田中学校として開校後、昭和二十三年の学制改革によって島根県立大田高等学校として

改称されました。翌年に県立大田農学校を引き継いだ県立大田女子高等学校と統合され、男女共学の県立高校として歩み出しました。以来、時代の変遷に伴い、課程や学科の改編、校舎改築等、様々な局面を経ながら、今年創立百周年の佳節を迎えることとなりました。先日記念式典を挙げてきましたのも、保護者、瓶陵会、地域の皆さまからのご協力の賜であり、心よりお礼申し上げます。

それでは学校の近況をお知らせします。各学年理科数科一クラス、普通科三クラス、全校定員四八十名のところ、今年度は全校三八一名の生徒数でスタートしました。約八割の生徒たちが部活動に加入し、大高の伝統である「文武両道」の精神を受け継ぎ、勉強と部活動の両立にしっかりと励んでいます。春からの県大会では、野球部が準決勝まで駒を進めたほか、弓道部、剣道部、陸上部、ソフトテニス部が中国大会に進出し、写真部、ボクシング競技が全国大会に参加してきました。

また今年度、目指す学校像として「地域とともに未来を切り拓く生徒を育てる学校」を掲げ、「自分自身で決める・語る・動くことができる生徒」を育成するというブランドデザイン（全体構想）を作成しました。大田高校は近年大田市と一体となって教育の魅力化を進めており、地元とのつながりをより深めながら、新たな歩みをはじめていきます。

生徒教職員一同は、百年の伝統を受け継ぎながら、次の時代への飛躍を誓い、新たな大高の歴史を刻んでいく決意です。今後とも、保護者、地域の皆さまからの温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

副会長 和田 恵

今年度、役員として研修委員会を担当させていただきました。生徒、保護者、教職員が共に学び、一緒になって大田高校の魅力度を再発見できるよう活動していきます。なお、研修委員会の活動として先日、百周年記念式典の準備と運営のサポートを行いました。ありがとうございました。

副会長 竹下 和宏

今年度、役員として会員交流委員会を担当させていただきます。コロナ禍で限られた中での活動となりますが、生徒たちのために尽力したいと思っております。よろしくお願いいたします。

副会長 松本 竜二

昨年度に引き続き役員として生活指導委員会を担当させていただきます。今年度も昨年同様、コロナ禍の環境の中、活動も限られますが尽力したいと思います。よろしくお願いいたします。

副会長 榎本 淳次

今年度、役員として総務委員会を担当することとなりました。創立百周年という節目の年に役員をさせていただきましたことに非常に戸惑いもありましたが、皆さんと良い交流ができたらいなと思っております。PTA広報誌「泰山木」が皆さんの心に残るものとなるよう頑張っております。よろしくお願いいたします。

副会長 岩 義博

高P連全国大会担当でしたが、大会はオンライン開催となり、残念ながら皆様と共に参加することは出来ませんでした。配信は十二月三十一日までですので、是非ともご覧下さい。

動画配信ページに直接アクセスできるURLとQRコード

https://mtg.shimakp.jp/shimane_deliveryvideo



パスワード st7cka825

創立百周年記念式典を終えて



大田高校の
創立百周年記
念事業実行委
員会

員会は、五年前の平成二十八年に瓶陵会と大田高校の先生方が一緒になって立ち上げたものです。創立百周年の記念事業は、誰も経験したことがなく五里霧中の中での船出となりました。

令和元年八月には募金活動もスタートし、本格的に事業が動き出しました。しかしその矢先の令和二年一月に、新型コロナウイルス感染症の暗雲が日本を覆い始めました。実は大田高校の前身の旧制大田中学校が開校した百年前も、ウイルス感染症の影響を受けていました。

世界的なパンデミックを引き起こした、このウイルス感染症は『スペイン風邪』の名称で有名ですが、日本では大正七年から九年にかけて猛威を振るいました。科学も今ほど発達しておらず、医療体制も未熟だった大正時代の日本を襲った『スペイン風邪』は、一説によると当時の人口の四十三%にあたる二千三百八十万人が罹患し、約三十九万人が亡くなったとされています。旧制大田中学校が開校した大正十年四月は、まさに『スペイン風邪』によ

記念事業実行委員長 白井 泉

る感染の第三波が終息した直後でした。多くの犠牲者を出し、様々な社会活動が停滞する中でスタートだったようです。その困難を克服して、大田高校への道筋を付けてくださった先人達にただただ頭が下がります。

令和二年一月以降、広がり続けるコロナ禍の中、実行委員会では会合を重ね、記念誌の編纂、記念の事業、募金活動は当初の予定通りに進めていくことを決めました。ただ募金活動についてはコロナ禍による経済の停滞で、目標額に届かないことも覚悟しました。

記念式典は当初、十月九日に大田高校体育館で行う予定でしたが、密を避けてより収容人数の多い大田市民会館をお借りし、来賓等の数も極力絞って実施することになりました。

島根県は日本で一番コロナ患者の少ない県なので、十月九日に何とか開催できるのではないかと考えていました。しかし、八月から爆発的に流行しだしたコロナウイルスデルタ株によってその希望は打ち砕か

れました。島根県でも一日に三十人、四十人と感染者が増えていきました。

記念式典の実施の可否は一ヶ月前には決定しなければならず、九月初めには急遽実行委員会を開催しました。一年延期しようという意見も多かったのですが、一年後のコロナ収束が見通せず、節目の年に開催したかった渡部校長と私はリモートによる開催をお願いしました。実は我々は、七月末に大田高校と東京とを結んで行われた瓶陵会関東支部のリモート総会に参加して、その効果を実感していました。

これを取り仕切っておられたのが、大田市が誘致し大森町にオフィスを構えるIT企業『株式会社アットゴー』代表の吾郷直美さんでした。勿論卒業生で、その道のプロですから彼女に任せれば出来るという確信を我々は持っていました。

多くの高校が記念式典を中止や延期する中、大田高校は市民会館と学校を結んでリモートで開催しました。生徒の皆さんが式典を視聴する体育館には



生徒会長 坂本桂一郎君



丸山達也島根県知事

式典が行われないにもかかわらず紅白幕が張られました。この大田高校の心遣いには感謝しかありません。

式典当日は、あれだけ急拡大していたデルタ株による感染第五波も下火となり、天候も穏やかな晴れでした。会場に向かう車の中で、「天は我々に味方した」と心の中で叫んでいる自分がありました。

来賓として県知事にも来ていただき、威厳を保ちながら記念式典が出来たのではないかと思います。来賓の元校長先生方からも、前日に山陰中央新報に掲載した広告が斬新で良い、当日の受付や座席案内の接客ぶりが良かった、生徒会長坂本桂一郎君の挨拶が、元氣はつらつとしていて感銘を受けたといった電話やメールをいただきました。

心配していた募金も目標額の一、六倍を超える浄財をいただき、当初の予定にはなかった岩谷奨学会館の内部改修も出来ることになりました。また、全国の卒業生の皆さんに記念式典の様子を、YouTubeで見えていただけたようになったことも良かったと思います。延期した記念講演や県外の方への功労者表彰などは残っていますが、無事に記念式典が終わったことで、何とか山は越せたかなと安堵しています。

記念事業を推進するにあたり、皆様からお寄せいただいたご支援、ご協力がとうございました。

百周年記念誌編集集中に出会った小さな歴史から

大田高校非常勤講師 川 上 恭 助

創立百周年を迎えた大田高校の百周年記念誌編集作業の中で出会った小さな歴史を一つ紹介したい。

令和二年六月、本校の三宅司書が図書館の書庫で、木箱を発見した。開けてみると江戸川乱歩など著名な文筆家の肉筆が数十点、展示用にきちんと表装された状態で納められていた。いつ頃のものなのか。その手がかりは、葉書の宛名と消印であった。文豪志賀直哉氏からの葉書の宛名は、昭和三十八年三月卒の生徒と判明。さらに消印で昭和三十六年であることが明らかにになった。

その年は大田高校創立四十周年の年で、「大田高等学校六十年史」には、わずかに一行「本校教室では文化祭の展示が催された。：図書部の「現代作家筆蹟展」：など、多彩なものであった」とある。その顔ぶれをどうしても知りたくなった。そして見つけたのが、「創立四十周年記念録」の記述である。中に、作家の氏名が記載されていたので、以下に列挙する。

阿部知二、犬養道子、江戸川乱歩、金子大栄、亀井勝一郎、川端康成、金

素雲、金田一京助、金達寿、駒田信二、佐藤春夫、里見淳、志賀直哉、鈴木大拙、武田繁太郎、田宮虎彦、邱永漢、平岩弓枝、三宅艶子、村野四郎、山本周五郎、山本裕義、山本有三（代筆）（敬称略、五十音順）

残念なことに川端康成、金田一京助他数名の筆蹟は見つからなかった。不明の理由はわからないが、最近、「川端康成の作家志望者への手紙発見」が新聞で大きく取り上げられたりしている、もし残っていたら話題になったに違いない。当時の図書部員（現在七十才）の話によれば、「うろ覚えながら筆で書かれていた記憶がある」とのことである。企画展から七年後、川端はノーベル文学賞を受賞した。

この件はこれで一段落したのだが、別のことで資料を捜していたところ、上記の経緯を知っている者が見なければ、けっして気づかれることのない二つの資料が出てきた。これは単なる偶然というより、奇跡といってもいいかもしれない。

一つは写真。岩谷会館資料室にあったアルバムから滑り落ちた数枚の写真

の中に、筆蹟展をバックに図書部員が写った写真があった。そして、その後の左隅に、川端康成と読める書を発見したのである。不鮮明で何と書いてあるかは判読できない。ドラマ「科捜研の女」に拡大鮮明化を依頼したいくらいである。

もう一つは、新聞部制作の瓶陵新聞（平成元年十二月発行）。その記事の中に当時の図書部長西村恵教諭が執筆した「本校図書館の宝物」と題する記事を見つけた。

図書館には、貴重な「宝物」がある。それは、佐藤春夫、阿部知二、亀井勝一郎といった文学史に名の残る諸大家が、「大田高校生のために」特に書いて下さった貴重な、というよりも、掛け替えのない色紙や原稿のたぐいである。（中略）高校生の願いにまともに応じて下さった諸大家の真摯な御態度やお心づかいにも、しみじみと感動させられるものがある。（中略）

山本有三氏に関しては、今春転勤された福田佐夜子司書さんの次の文章を、そのまま紹介しておく。

「なかでも山本有三先生の関係のものは、病氣療養中の先生に代わって夫人が書き送ってくださったもので、二通あります。一通は生徒の依頼に対する病氣を理由としたことわり状です。もう一通は、先生が病氣だということ

を知って、図書委員である先輩がお見舞いの手紙を書いたらしく、その返事として書かれたものです。

特にこの二度めの葉書は印象的で、『今の方々にもこんなよい方々があるのかと日本の前途に対し久々に明るい心地がいたしました』とまで書かれ、予想もしていなかった見舞いの手紙が来たことへの喜びがあふれています。（中略） 最初のことわり状はいわば先生の秘書としての事務的な文面ですが、二番めの葉書はその立場を超えて、『皆さまのような人情の厚い方々がおられる事の余りに嬉しく』思われて書かれたもので、夫人の心豊かなお人柄がのぞかれます。」（大田高校図書館報「第65号」）

いまなお心あたたまるエピソードである。

はたして、大高生はどのようなお見舞いの手紙を出したのだろうか。

このように百周年記念誌を編集していると、だれかが掘り起こさなければ消えてしまう、おそらくはそのほうが圧倒的に多い、そんな学校生活の日々の歴史にぶつかる。この「本校図書館の宝物」の発見から、様々な偶然の連続の中で浮かび上がった奇跡のような事柄を大切にしたい、編集に携わったが故に知ったことを少しでも残したい、と思うようになった。

百周年を 迎えて

昭和六十年代の 高校での思い出

昭和六十二年度卒業生

伊藤 昌彦

・入学前に先輩から、部活動を決めていないと「応援団に入らされる」と聞かされる

・体育館での応援歌練習は、応援団員が見回り。腹に力が入っていないと、怒鳴られる者も

・一年のスポーツ大会は、水泳が開催（昔はプールがあった）

・一・二年時には、部活動で夏合宿！二年時、校舎から新校舎へ亘る風の強い日の屋外通路

・ロードレース大会での柿事件

・昭和六十二年春の選抜高校野球に同級生が出場。甲子園で応援

・三年、部活動の県総体で初戦を突破し、松江市へ宿泊

・高校卒業後、友人から「テスト前にお前のノートを預かって勉強し、助かった」と聞かされ、生涯の友だと確信

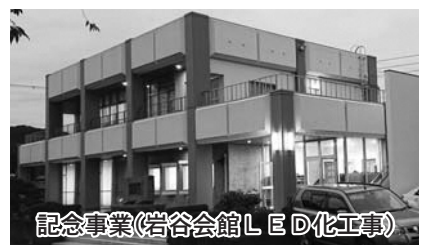
高校時代の三年間はとてつもなく短



記念事業(ワゴン車購入)



記念事業(楽器ティンパニ購入)



記念事業(岩谷会館LED化工事)

い。その中で、高校生の皆さんは何ができるのか。私は、生涯、友と呼べる友人を見つけることだと思う。三年前の中学卒業式で皆が歌った「友々旅立ちの時」を聞き、涙を流したM先生は、きつと、生涯の生徒だと確信しての涙であつたろう。

君たちにも、生涯「友」と呼べる友人を見つけて欲しい。

次の百年へ祈りを込めて

平成三年度卒業生

渡利 章子

母校創立百周年の記念の年、まさかの「泰山木」の原稿依頼を頂きました。今、傍らには卒業アルバムがあります。私が高校時代を過ごしたのは昭和から平成へ元号が変わり、世界ではベルリンの壁が崩壊し、湾岸戦争が勃発した時代。旧瀬摩郡温泉津中学校から大田

高校への進学は、私にとって大きな社会への一歩でした。この三年間が今の私の日々の営みへと全て繋がっています。関西へ進学をし、

卒業間際に起きた「阪神淡路大震災」。この時の体験が再び故郷へと私の人生を向かわせました。現在、最愛の伴侶を得て、この地で三人の子の母となり、二人の子供が大田高校へ進学をしました。子供の入学式で新校舎を訪れ、再び「見よ、見よ」と校歌を斉唱する日が来るなんて。全ては次世代へ繋げてこそ。今、三十年の時を経て、当時の同級生、先輩、後輩、先生方と再び会い直しています。このリレーが、この先の百年も続いてゆきますようにと祈りを込めて。

失敗は失敗のもと

平成三年度卒業生

三浦

靖

改めて三十年前の高校時代を振り返ってみると失敗の連続であった。その中でも思い出深いものがある。それは、

大田高校は創立100周年
100th
ANNIVERSARY
since 1921

100周年記念の
ロゴマーク



全校生徒への記念品

音楽センスの欠片もない残念な私は学園祭で仲間たちと共に「お笑い」を披露しようと無謀にも挑んだことだ。今やテレビ界を席巻するダウンタウンやウンナンが未だ若手と呼ばれた「お笑い第三世代」黎明期の頃である。当初は流行りの漫才やコントを想定していたのだが「クラブ活動以外の勝手な発表は認めず」との指導を受け、姑息にも休眠状態の落語研究会の名を借りて強行した。体育祭の準備と並行しながら受験勉強に最も大切な三年時の夏休みを全てコミカル動画の撮影・編集や落語の稽古に費やし、正に寝食を忘れて没頭する日々を過ごした。その結果、見事に大学受験には失敗、浪人生活を送る羽目になってしまったのは言うまでもない。後日談ではあるが、予餞会でも無許可で飛び入り参加したため大目玉を頂戴し、卒業式直前一週間の草抜きを命じられ、高校生活を終えた。

PTA総会(書面決議)における主な意見・要望に対する回答

○体育、文化活動振興費の平準化について

・部活動の配分については、部活動の特性を踏まえ生徒が活動しやすい配分になるよう工夫しています。体育、文化活動振興費を割り当てている部活動については、生徒会会計の予算の配分を押さえるなどしており、今後も均衡がとれるよう検討していきます。

○創立百周年記念事業におけるワゴン車の購入について

・大田高校には、岩谷産業様の寄附によるマイクロバスがありますが、普通免許では運転できないため使用頻度が少ない状況です。部活動の遠征等が効率的かつ負担が少なくなるよう創立百周年記念事業でワゴン車を購入させていただきました。

○PTA総会の議案承認のための押印について

・本人確認の方法として必要性の薄い「押印」は廃止していきたいと考えています。

○屋外トイレの衛生管理について

・屋外トイレは、現在くみ取り式ですが、今後、下水道への接続や手洗いの自動水栓化、定期的な清掃など検討していきます。

○制服の変更はありますか

制服の変更・変更なしを含めて、校内で検討会を立ちあげて検討中です。

○地域や地元企業を知る機会を、どんどん設けて欲しい

・本校では主に「総合的な探究の時間」の中で、地域や地元企業の方のご協力をいただいて学習活動を行っています。一年生は「地域体験活動(七月)」や「地域の企業説明会(一月)」「社会人講話(二年)」「ダイコウアワー」大学生や若者と交流(三月)、二年生では「ダイコウプロジェクト」地域課題解決型学習(一年間を通して)があります。
・生徒たちは地域の方との協働活動を通して、多様な価値観に触れそれぞれの学習活動で主体的・対話的な学びを深めています。大田高校生が大田の地域を知り、地域の方々には大田高校生を知っていたら嬉しい機会をこれからも設け今後も取り組んでいきたいと考えております。引き続き協力のご協力をお願いします。

○朝の車での送迎時の混雑について

・8時30分前後から40分前にかけて、送迎の車が最も多くなっています。時間を早めて送迎していただく、あるいは、送迎場所はプール跡地駐車場でも構いません。混み合う時間、場所を避けていただけると喜びます。

大高祭を終えて

生徒会長 坂本 桂一朗

今回百周年となる、節目の大高祭を開催するにあたって、コロナ禍で規模縮小が叫ばれる中、開催に尽力して下さった先生方、並びに地域の方々の御協力と三年生が互いに協力し合い、一つになったことで無事に素晴らしい大高祭になりました。本当にありがとうございました。

さて、今回の大高祭のテーマであった『Appreciate the moment』心を密に最高の仲間と『ですが、そのテーマ通り、開催中は皆さんの口から『ありがとう』がよく聞かれました。例えば、落ちていたタオルを拾ってあげた時、雨の日に相手を傘に入れてあげた時、いつもは言えない友人への感謝を言う時、何気ない『ありがとう』が集まって、みんな『有り難い事』を創り上げることができたと思います。最後に、もう一度、ご尽力頂いた全ての人に感謝を込めて『ありがとう』。



「2年生クラス企画」



「委員会展示」



「ステージ発表」



「お茶席(茶道部)」



「遠足」

学園 スナップ



「新入生ウェルカムコンサート（吹奏楽部）」



「1年理数科三瓶サイエンスセミナー」



「1年生SDGs講演会」



「2年生地域課題解決型学習」



「1学期球技大会」

青組団長 三年三組 妹尾健太郎
まず去年に引き続きコロナ禍で開催

大高祭に尽力して下さった方々、ありがとうございます。次は受験に向けて団結して頑張っていけます。

祭になりました！
生のクラス企画が面白く、最高の大高祭になりました！

今年の体育祭はコロナウイルス流行の影響でたくさんの制限はありましたが、とても白熱した体育祭になりました！準備期間にはクラスの中で意見の食い違いが起きることもありましたが、最後は団結力を発揮することが出来ました。そして生徒会や、二年生のクラス企画が面白く、最高の大高祭になりました！

細田丈一郎

黄組団長 三年二組

次は受験に向かって頑張っていきたいです。

準備期間中は楽しかったことも大変だったこともありました。しかし、放課後残って同級生と体育祭の準備をするという日々はとても思い出に残っています。

赤組団長 三年一組 菅森 淳

まずは今年度も前年度に引き続き大変な状況の中、大高祭を開いてくださった先生方ありがとうございます。

淳

選手宣誓



まず去年に引き続きコロナ禍で開催

大高祭に尽力して下さった方々、ありがとうございます。次は受験に向けて団結して頑張っていけます。

祭になりました！
生のクラス企画が面白く、最高の大高祭になりました！

今年の体育祭はコロナウイルス流行の影響でたくさんの制限はありましたが、とても白熱した体育祭になりました！準備期間にはクラスの中で意見の食い違いが起きることもありましたが、最後は団結力を発揮することが出来ました。そして生徒会や、二年生のクラス企画が面白く、最高の大高祭になりました！

重富 大空

緑組団長 三年四組

次は受験に向かって頑張っていきたいです。

準備期間中は楽しかったことも大変だったこともありました。しかし、放課後残って同級生と体育祭の準備をするという日々はとても思い出に残っています。

赤組団長 三年一組 菅森 淳

まずは今年度も前年度に引き続き大変な状況の中、大高祭を開いてくださった先生方ありがとうございます。

淳



3年1組



3年2組

Appreciate the moment

～心を密に、最高の仲間と～



3年3組



3年4組

編集後記

創立百周年おめでとうございます。「大田高校の思い出」というテーマで考えてみると、他高卒の私にもひとつありました。当時の大田高校名物(?)「きりんパン」がどうしても食べてみたくて友達に頼んで買ってきてもらった：という本当にくだらない思い出があるのですが、いろいろな意味で憧れの学校でした。泰山木に携わることができ、感謝と私なんかですみませんという気持ちでいっぱいです。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。(山崎えり)

今年には創立百周年。自分が在学していた時七十周年記念碑の除幕式に出たことを思い出しました。そして三十年後の今、泰山木の編集に携わりながら昔をふり振り返り懐かしんでいます。懐かしいといえば、今号の記事の中のなかで本校OG・OBの方にコメントを頂いていますので読んでいただけたらうれしいです。

泰山木の発行にあたり、寄稿してくださったみなさまに心より感謝申し上げます。ありがとうございます。(地崎達也)

創立百周年おめでとうございます。私が卒業したのが四十年前でした。当時は一年生八クラスありましたので現在の一年生四クラスと聞くと少し寂しい気がします。四十年経ってもまだ当時の校長先生が言っておられました「三点固定」と言う言葉、今でも鮮明に覚えています。「起床時間」「家庭学習開始時間」「就寝時間」を毎日固定する生活習慣の考え方だったと思います。今でも通ずる言葉としたいと思いますので生徒の皆様にも是非覚えていただきたいと思います。

(渡邊 潤)